

【ねがいましては】

平成14年4月25日

第144号

KYOWA SCHOOL

「じゅくとも」

「おはよう」・・「おはよう」という、朝のあいさつの光景。私の教室のある中学生は、当校途中に小学生たちとあいさつを交わします。「誰なの」というその中学生の隣りを歩いていた友だちは即座に聞き返します。「じゅくともなの」という返事。

私はこの話を聞いた時、「あれ、新しい言葉ができるな。・・あったかいな・・」

「メル友」などはよく聞く言葉なのですが、この「じゅく友」は、いいなあ。

小学生と中学生が友達になって、ともに朝のごあいさつ。それも何の違和感もない、何の飾り気もない、普段の相変わらずのあいさつ。

このようなことは、この教室では自然体で行われています。どんなに学年が違っていても、男だろうが、女だろうが、至って自然体。私もそれがいつものことなので、気にもしていなかったのですが、その中学生のお友だちの問い合わせによって、そうか、結構珍しいことなのかなと思った次第です。

先日、中学校で2年生全員が集められ、先生方から「お説教」があったとのこと。2年生から1年生に手紙を出さないようにとか、あまり1年生にきつく当たるな。とか、色々あったのどうです。何があったのかはわかりませんが、どうやら学年差から生ずる「摩擦」が原因になっているようなことは察しがつきました。

わたしは心の中で「ポケッ」としていました。この教室ではそのようなことを考えもしなかったからです。みんなが友だち気分でいるからです。なに届かない会話が今日も聞こえてきます。

積極的な明るい子もいれば、おとなしい子もいる。それはあたりまえのこと、その子が自然でいられればそれでいいのではないか。どんなにそれまで心を開かなかつたとしても、何がきっかけで心の扉を開くかわかりません。ここは学年がありません。みんなが「人」なだけです。これってとても大切だと思っています。私もそのひとりだからです。

昨日の光景、中1のTちゃんは英語がペラペラ、2年以上もアメリカにいたのだから発音はすごい。私もすぐに質問してしまいます。勉強勉強・・(冷や汗)。

そのTちゃんが目の前にしている生徒は中学2年生。でもその二人の姿は「じゅく友」の姿なのです。

先輩も後輩も関係のない世界、かといって年下は年上に対して甘えることもなく、年上は年下に威張るわけでもない。そこにあるのは、お互いがお互いに「人としての尊敬の念」を抱いているだけなのです。だから会話も自然体。こここのところこのような光景が多く見られることに、またまた、またまた、私の心は温かくなりっぱなし。さあ、気を抜いてバチ当たらぬよう、今日もしっかりと働かなくちゃ。それにしても皆さん、ありがとう。

5月の予定

5月10日(金) 珠算・暗算検定試験申し込み締め切り

パソコンクラブ・・11日(土) あります。18日(土) お休み。→入れ替わり。

22日(水) ~25日(土) 珠算・暗算検定試験・・KYOWA SCHOOL

クリクリクラブ・・5月25日(土) 予定します。細かくは、別にお手紙でお知らせします。

『勉強が楽しくなる子ならない子』として、座談会を予定。親・子・卒業生・他